



# 善正寺だより

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
TEL:0593-31-1670  
FAX:0593-32-0733

## 掲示板法話

### 真剣な問いと大らかな導き

### 学びの場が生きて生きする秘訣がここに

桜花爛漫の春。入学、進学、就職等、新たな出会いの季節です。人生とは出会いの連続、積み重ねです。単なる出会いと意味ある出会いの違いは何でしょうか？

先月、前進座公演「法然と親鸞」を見ました。若き修行僧・親鸞さまが、六角堂参籠の九十五日目、聖徳太子の夢告により、吉水の法然聖人を訪ねられたのが出遇いの始まりでした。争乱や飢饉が相次ぐ時代、法然聖人の庵には熊谷直実など武將と共に、庶民も大勢集まり、「酒を飲んでも救われるのか?」とか「遊女でも救われるのか?」など、素朴な疑問に対して法然聖人は大らかに専修念仏の救いを説かれました。

一方、親鸞聖人は吉水の法然聖人の下に、晴れの日も雨の日も嵐の時も、百日間通い続けたと妻・恵信尼様のお手紙に記されています。つまり、疑問を抱きつつ、真剣に師匠に問いつけた結果「雑行を棄てて本願に帰す」という求道の解決を得られたのです。親鸞さまが法然聖人の下で研鑽に励んだのは越後流罪までの六年間ですが、生涯の師匠と仰がれたことは、「恩徳讃」のお言葉

を味わうならば自明です。

如来大悲の恩徳は、身を粉にしても報ずべし、師主知識の恩徳も、骨を砕きても謝すべし。(正像末和讃) 聖人八十五歳、善鸞事件翌年の作です。誠に麗しい生涯の出遇いです。

『在家仏教』四月号に「念仏者・川上清吉師のこと(西原祐治著)」という一文が掲載されたので、川上先生を生連の師と仰いでいる方にお送りしたところ、「涙が出るほど嬉しかった」というお電話を頂きました。その人は青藤さんという篤信の念仏者で、若き日、島根大学教授であった川上先生を囲んで毎日毎晩語り合った経験が念仏の救いに遇う仏縁となりました。不自由なお身体を押して遠隔地から熱心に聴聞に励まれた青藤さんの姿から先生の薫陶が偲ばれます。その川上先生は、往生の半年前、阪大病院で胃がんの全摘手術を受けたのですが、その直後の心境が同誌の中で紹介されています。

「やっぱり浄土はあるのだ。その浄土に連なっているからこそ、この救びが来るのだ。今私の胸には絶望や悲しみの影だにない…。深々とした温かいもの

さえ満ちてくる」

重病の青藤さんを見守られた奥さんに先立たれた青藤さんの姿に川上先生の深い求道が二重写しに重なり、それは法然聖人と親鸞聖人の師弟関係をも連想させるよすがとなりました。

一人ひとりの真剣な問いと大らかな導き・聴聞の現場が活力を取り戻す秘訣がここに。法然と親鸞の親劇は新鮮な学びの機縁となりました。



お悔やみ申し上げます★

★世古蓮華(あかつき台六十二歳三月九日) 合掌

★広方蓮華(榑東町八十九歳三月十九日) 合掌

★ホットニュース

★去る3/13「三重組十三日講」9年ぶりにお迎え。好天の中168名からお志を頂戴。お手伝いの門徒さん含めると総勢200名が参加聴聞しました。

★三月二十一日(金)中日劇場「法然と親鸞」親劇。善正寺より二十二名参加。

★三重組コーラスピアノ伴奏を渡辺曉美先生に三月末より交代しました。

★四月十九日(土)午後一時「初講式」を受ける赤ちゃん、幼児大募集!

★緑のある方誰でも可。参加費千円(子供用数珠・記念写真・冊子付)

★カンパ有難う★

YM様・小林征子様・他匿名様よりお志や切手を頂戴しました。

## ☆行事ご案内☆

4月19日(土)午後1時半

『初参式・降誕会』三全仏教婦人会主催

講師 加藤幸子先生(白山町)休憩時赤飯のおむすび用意

※赤ちゃん大募集! 2回目受けられる子供さんも大歓迎入学、成人、還暦など人生節目の記念日に当たられる方も!

★4月20日(日)夜7時半

門信徒会例会

5/25総会・公会法座に向けての準備、相談など新旧役員さん、行事さんご出席お願いします

- ①「法然と親鸞」親劇の感想と座談、歴史的背景など。
- ②20年度の役割分担、活動計画などご相談。

★三重組コーラス:4/26(土)夜7時半練習

※陽光苑慰問4/11(金)10時半誰でもOK。童謡懐メロ美しい詩を味わいながら、大勢で心一つに歌う喜び。

新たなプロの伴奏者を迎えてのコーラスにあなたもご参加を!

◇日校:4月5日(土)4時より 新しいお友達もどうぞ!

◇一線会テレホン法話11冊目の本「逃げたらあかん」発売中 059-354-1454へお電話を。3分間の法話が流れます

◇初参式4/19午後1時半 赤ちゃん幼児大募集会費千円

### 坊守スケッチ

## 捨てられない手紙

皆さんは捨てられない手紙を何通お持ちですか？最近では手紙よりメールや電話で簡単に用を済ませてしまっています。より多くの人とたくさん情報交換ができて便利ですが、殆ど印象に残りません。

中学生のケータイは一日200通以上のメール交換。着信即返信の繰り返しで、使用時間は勉強時間の2倍以上。私は今まで卒業生を送り出す時には色紙に写真を貼り、思い出の言葉と全員の寄せ書きをしていました。最近はその面倒なことは嫌がり、メールアドレスの交換をしておしまい。実に寂しい限りです。

ところで作家の井形慶子氏が『手紙の力』という本で「人生で人が手に入れたものの究極は、地位やお金ではなく思い出し捨てられない手紙をたくさんもらった人は、手紙の数だけ幸せに包まれている」と語っています。

3/19付中日新聞で井澤美智子さん(63歳・主婦)が「実家の94歳になる母親が、寒空の畑で何やら燃やしている。それは新婚間もない頃、戦地の父親宛に毎週送り届けた母からの手紙。父は全部大切に持って帰還。父は今から28年前に亡くなり、母は自分のお棺にその手紙を入れてもらうつもりだったが、思い切って今日処



分。この煙は父に届いたのだろうか？この手紙を燃やしなから、母は父とどんな会話をしたのだろうか？母の顔は新妻のように美しかった。お母さん、急がずにゆっくりお父さんに会いに行こうね」と投稿。『戦地への手紙』から両親の愛情の深さを知り、娘なりにしっかりと受け止めています。

ところで私も捨てられない手紙がたくさんあります。それは98歳で亡くなられたマンドリンの恩師からの手紙です。明治生まれの恩師はとても筆まめな方で温か味のある字体で簡潔に要点が書かれていました。大先生からの手紙を郵便受けで見つけた日には一日嬉しい気持ちでした。私が手紙を億劫がらずに書けるようになったのも、恩師のおかげだと思います。それともう一人、私の母からの手紙。86歳で亡くなる10年前に書いたものです。母はこの頃から死を覚悟していたようです。内容は苦勞した自分の人生、孫達にどんな人間に育って欲しいかという願い、それに手の施しようがない時には、延命治療を拒否したいことなどが書かれていました。手紙は不思議な力を持っています。ケータイの細切れ会話では、あまり感動しません。手紙を書くのと、書かないのでは、歩む人生が全く違います。文章や文字の上手下手ではなく、たっ

た一行の言葉によって生き方を変えることすらあります。私も相手の心に届くような手紙を書きたいものです。そういえば御文章は蓮如さんから全国の浄土真宗の門徒に宛てられたお手紙です。500年以上も読み伝えられているとは全くスゴイものです。

### ☆寄稿

四日市市 川崎孝一

☆御出座した「星の王子」の花月様

稽古に酔うは 三重組コーラス

☆列為して 蝶遊ぶがに 花筏

『法然と親鸞』待つ間の 緞帳

☆ハイウェイ「富士」の雄姿を小半時

遠く近くと ワイドの窓に

四日市市 釈 弘蓮

☆ちちははに 感謝の思い 永遠に

作り続けて まだ足りぬ

釈 尚爾(故・善正寺前住職)

### 「こんな私が」

何も知らずに 生まれ出て

知らぬ間に 年を取り

思わぬ病気で 死んでゆく

人の一生 この道は

逃げも隠れも できぬ道

こんな私が 救われて

お慈悲喜び 南無阿弥陀仏

「恩知らされ ありがとう」

### 「三重組コーラス」

※四月十一日(金) 午前十時半 陽光苑

十三回目慰問。誰でも参加可。童謡他

※四月二十六日(土)夜七時半 練習

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇四月五日(土) 午後四時より



3月14日(金曜日) 中日・夕刊

夢の仕事探して 坊守(ぼつもり)と呼ばれている寺の住職の妻です。小学生が一年掛けて地域住民の仕事を探っていて、私も取材をされました。お寺と縁遠い子どもたちと心の懸け橋ができて、私にとってもうれしいことでした。取材内容を本にまとめ、出版記念パーティーがあり、雪の日でした。かできない仕事を見つけて、世の中のために活躍してください。(四日市・坊守・女・58)



H20・3・6三重組寺婦・コーラス合同研修会。in西勝寺  
元御堂演奏会指揮者花月真先生を迎えて『娘達よ』を歌う  
プロのオペラ歌手の先生のご指導に60名が大感激!

### ☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第一七二号をお届けします。◇ある時、「四苦八苦」の話から、思わず「今の福田政権のような」と口走って、ふと気づいた。「政権を投げ出せば総理の苦は消えるが、我々は人間をやめられない」と。◇四月は釈尊誕生の月。政治談議と共に人生談議こそ!

四月は心澄みくするスタートの月です。新しい学校や社会に胸ふくらませる方もおありでしょう。私の寺でも三全仏婦主催の「初参式」があります。今年で17回目。当時の赤ちゃんは今もう高校生。参念寺真を眺めていると、地域皆の愛情に包まれて健やかに成長されたことが懐しく思い出されます。最近はその少子化で参加者も減少傾向。皆さんの呼びかけで一人でも多くの方が参加されるようお願いしています。これからは赤ちゃんだけでなく、人生の節目に当たる方々が奉告記念参拝されるのも如何かと思ひます。年に数回親子3世代揃ってお墓参りの道すがらお寺参拝される家族があります。成長した孫さん達が老いた祖父母の体を気遣いながら一緒に参拝される光景は麗しく長い間その様子を見守り続けられることは幸甚と幸せなことです。北陸から娘の嫁ぎ先へ移られた80代の方が「北陸では昔馴染みの商店街やお寺の風景があり知らない人とも言葉交わかけ合った。こちらでは隣近所のみ合いも希薄で淋しい限り」と感想をもらされました。仏法薫る温かい土地柄と「土徳」といいます。小杉は四日市でも「土徳」が残る町。しかし冠婚葬祭が地域住民の手から業者任せになるのと比例するかのよう。うに土徳の良さも失われつつあります。新しい時代の土徳を皆さんと共に築いていきたいものです。四月の行事予定として「初参式」後「初参式・降誕会」・「20日夜例会」・三重組コーラスは「少山（金）の時半陽光苑」・少山（土）夜7時半練習先般の三重組十三日講には遠近各地より多数お参り頂き有難うございませう。今後共々よろしく協力お願い申し上げます。

平成二十年四月

合掌

善正寺坊守拝